

小さな村の大きな夢、 実現に向かって



左 鈴木 茂さん
Shigeru Suzuki

右 小倉 祥敬さん
Yoshinori Ogura

くわ1丁と体を資本に 理想郷を夢見て

「最高の土地!」。会長の小倉さんは8年前、市街地から上野地区へ移住。「子どものころから山が大好きで、いつかは山へ住もうとずっと思っていました。3年間、山を探し歩き、稲葉山からの景色を見てここだとひらめきました」と目を輝かせて話します。

上野地区は、合併前の鳥取市地域の東部、福部・国府町地域に接し、標高248mの稲葉山の中腹に位置する戦後

の開拓地で、現在は28戸のみなさんが生活しています。開拓の歴史は古く、明治維新のころ、旧鳥取藩の士族が入植したという記録もあります。が、本格的に開拓が始まったのは、食料増産が求められていた第二次世界大戦後の昭和21年です。

農業を引き継いで2代目の鈴木さんは「開拓当時、この土地は弱酸性の土壌で一面雑木林。丸1日作業しても豊1豊分を畑にするのがやっとだったと、父から聞いています」と開墾の厳しさをしみじみと話します。文字通り開墾の

上野地区 活性化協議会

ためのくわ1丁と体だけを資本に、理想郷を夢見て、試行錯誤を繰り返してきた先人たちの血のにじむような努力の甲斐があり、また、昼夜の温度差や良好な日当たりといった気象条件にも恵まれ、現在では、二十世紀梨を中心に柿、りんご、銀杏などの果樹や特産の上野山西瓜、野菜などが多く栽培され、酪農も行われています。

愛する村を もっと元気に明るく

この地区では以前から、地域の小学校の地域学習の一環

として開拓の歴史や梨の栽培などについて子どもたちに話をしたり、岩倉までの4kmの市道の草刈りやゴミ拾い、倒木の撤去などをしたり、自発的に活動しています。そんななか、平成15年5月、子どもからお年寄りまで村中で、自分たちの住んでいる地域をもっと元気にしようとワークショップを開き、村の中を実際に歩いてまわり、みんなで問題点を何度も話し合いました。

そして、同年7月、地域のみんなの力で自然を守り、それを資源として生かそうという思いが一致し、上野地区活